

シンポジウム1 6月27日(土) 14:20~16:50

## ファン研究とは何か

問題提起者：岡部大介（東京都市大学）

問題提起者：調整中

討論者：バラニャク平田ズザンナ（成蹊大学）

討論者：辻泉（中央大学）

司会者：杉山怜美（明星大学）、塚田修一（相模女子大学）

（企画：企画委員会）

「推し活」ブームに象徴されるように、近年、ファンの消費行動やコミュニティ形成が社会的に広く可視化されるようになった。そうしたなかで、メディア研究や隣接の領域においても、ファンを対象とした研究が増加しており、特に若手研究者のあいだでは、ファンの活動や実践を研究対象とすることは自然な選択肢となりつつある。

当然ながら、そうした個々の研究においては、特定の作品、特定のジャンル、特定のコミュニティに焦点を当て、その個別事例をそれぞれの視点と方法によって深く分析することが求められる。そして、そうした個別研究の蓄積こそが、ファン研究の領域を豊かなものにしてきたし、それについては今後も同様だろう。

だが、そうした個別研究の順調な蓄積の一方で、研究領域全体を「俯瞰」「抽象」するような視点は、未だ十分な展開を見ていないように思われる。たとえば、ファン研究の学術的な位置づけをどう考えるべきか、その中で、ファン研究の理論化をいかに進めることができるか、そしてそれらを通じて、ファン研究の輪郭はどのように明確化されるのか。こうした問いが未着手のまま残されているように見えるのである。

もちろん、こうした問いが個別研究に常に求められるわけではない。個別研究は独自の関心から独自の対象を掘り下げることにまずは注力すべきだろう。だが、こうした「俯瞰」「抽象」の視点は、個別研究同士の接続可能性や、隣接領域との連携可能性を高める上では必要なものだし、それは中長期的にはファン研究の発展に資するように思われる。

そこで、本シンポジウムでは、個別研究の展開が一定の水準に達した今日の地点から、あらためて「ファン研究とは何か」を考えてみたい。当日は、昨今のファン研究の豊かな蓄積を踏まえた上で、問題提起者からファン研究の学術的位置付けや、理論的、領域横断的な展開の可能性について問題提起を受ける。そして、討論者、フロアとの議論を通じて、ファン研究がこれまで何をしてきたのか、そして今後何をなすのかを考えてみたい。

以上の企画意図からも分かる通り、「ファン研究とは何か」という本シンポジウムの問いは、ファン研究を狭く限定するための問いではまったくない。それは、ファン研究の多様な広がり前提に、その輪郭を明確化するための問いであり、その意味でむしろファン研究の入口を広げることを企図している。関心を共有する多くの人の参加を期待したい。

シンポジウム2 6月28日(日) 15:45~18:15

「テレビはどこへ向かうのか ～ 制作現場を経験した研究者らの視点から」

司会者：奥村信幸（武蔵大学、元テレビ朝日）

パネリスト：渡辺将人（慶應義塾大学、元テレビ東京）

パネリスト：熊田安伸（スローニュース、元NHK）

パネリスト：脇浜紀子（京都産業大学、元読売テレビ）

パネリスト：中町綾子（日本大学、元民放連客員研究員）

（企画：武蔵大学）

本シンポジウムでは、かつてテレビ局で仕事をしていて、あるいは深く関わっていた、それぞれ異なった職歴や専門分野を有する顔ぶれが集い、自身の経験を生かして、テレビというメディアの現状を踏まえた上で、今後を展望することが目的である。単なるビジネスという産業論的な議論にとどまらず、社会における文化的な価値、さらにはスキルやノウハウの伝承の場としての制作現場など、多様な側面からテレビの展望を描き出したい。

当日は、各パネリストの多様な専門性を生かした多角的な議論を展開する予定である。具体的には、テレポリティクス後の政治報道やネットメディアでの政治討論の功罪、災害報道におけるテレビの役割やネットコンテンツの可能性について問題提起がなされる。また、アナウンサーの今後の役割やローカル局の地方密着の価値、さらにはドラマという「文化」の価値や制作ノウハウの伝承、ネットフリックス等の台頭を踏まえたコンテンツ展開の可能性などについても論じられる予定である。その他にも、電波を使う存在としてのテレビ局の必要性や、広告費モデルの見通し、放送法の功罪など、幅広いテーマに発展する可能性がある。

本シンポジウムの開催にあたっては、形式的なプレゼンテーションを次々で行うのではなく、司会者と各パネリストの1対1の対話と全体討論を織り交ぜて進行する。さらに、登壇者が当事者などに気兼ねせず問題を指摘し議論できるように配慮するため、参加者には録音と録画をご遠慮いただき、引用に関しては「チャタムハウス・ルール」（内容の引用は可能だが、発言者を特定してはいけない）の遵守をお願いしたい。なお、当日はオンライン登壇者を1名交えるが、一般参加者はオンラインではなく、開催校のメイン会場での参加、およびサテライト会場でのパブリックビューイング方式のみとする会場運営を予定している。